

令和5年度 新たな「住田高校教職員 働き方改革アクションプラン」

～他者への思いやりと助け合いのもと、ともにかがやける職場をつくろう～

住田高等学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現 状

- (1) 令和4年度における教職員一人あたりの勤務時間外在校時間数は月平均26時間24分であり昨年度の31時間39分から減少している。(令和2年度は36時間16分)
- (2) 令和4年(1月～12月)における教職員一人あたりの年次休暇等取得日数は14.0日であり前年度の14.6日と比べ横ばい状態である。(令和2年度は13.64日)
- (3) 対外活動の多い部活動や事務処理業務が多い分掌を担当する一部教職員に業務が集中している。教育活動全般において、個に頼ってしまい、組織として対応できていない場面がある。
- (4) 正課以外の学習指導や生活指導に時間をとられ、授業の準備という最も大切な時間を十分に確保できない。

2 目指す姿

勤務時間外在校時間を縮減し、年次休暇の取得促進とあわせて勤務時間以外の個人の生活を大切にする時間を確保する気運を職場内に醸成することにより、ワーク・ライフ・バランスの健全化を図ります。そのことにより、教職員一人ひとりが心身の健康を回復・維持し、日本の将来を担う大切な生徒たちへの教育活動により一層集中して、持続的に取り組める体制を構築します。各年齢層の教職員は、岩手県教育委員会「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」に則った能力育成を図り、その能力に合わせて公平に業務を分担するとともに、業務が特定の教職員に集中する時期には「思いやりと助け合い」の精神で係分担の枠を超えてお互いを助け合うことにより、一人ひとりが毎日生き生きと教育活動に携わることができる職場とします。

岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)

【策定趣旨】

「働き方改革」の実現により、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育の持続的提供につなげる。

【プランの期間】

令和3年度～令和5年度までの3カ年度

【プランの目標】

1 時間外在校時間の縮減

- (1) 時間外在校等時間が月100時間以上の者を令和3年度からゼロにする。
- (2) 時間外在校等時間が月45時間超、年360時間超の者を令和2年度比で以下のとおり段階的に削減する。

令和3年度5割減⇒令和4年度8割減⇒令和5年度ゼロ

2 業務への充実感や、健康面での安心感の向上

令和5年度において、アンケート調査に基づく肯定的実感が令和3年度の実施結果から向上することを目指す。

3 取組内容

(1) 教職員の負担軽減

- (ア) 組織として業務にかかわり、能力に応じて公平に業務を分担し、特定の個人に業務が集中する事態を防ぐ取組を実施します。
- (イ) 前年度踏襲主義に陥ることなく、エビデンスに基づいて行事や業務を見直し、スクラップ・アンド・ビルドを実施することにより、教育的効果の高い行事や業務を精選し、集中的に取り組む体制をつくります。
- (ウ) 業務の処理量や処理方法について困っている同僚がいたら、複数の教職員で対応し、「思いやりと助け合い」の精神で援助します。
- (エ) コミュニティ・スクールの導入を契機に、これまでに学校が行ってきた業務を「学校がすべき業務」と「学校以外の家庭や地域社会等がすべき又はできる業務」に区分し、学校がこれまで行ってきた業務の一部を家庭や地域社会に担ってもらう体制づくりを始めます。
- (オ) 部活動指導員等との連携を図り、教職員の部活動をはじめとした課外活動指導時間を縮減します。

(2) 教職員の健康確保等

- (ア) 教職員一人あたりの年次休暇取得年間日数を12日を最低とし、それ以上の取得を目標にするとともに、勤務時間外在校時間数が月平均40時間以内を維持します。
- (イ) 勤務時間終了後に2時間を超過して勤務しなければならない教職員は副校長に事前に申し出るとともに、その業務内容を報告します。
- (ウ) 副校長は超過勤務月45時間超(部活動指導従事時間を除く)の職員と面談を実施し、業務の適正な分担について見直します。
- (エ) 管理職は教職員の悩み事についていつでも丁寧に応じます。
- (オ) 夏季休業中及び年末年始の学校閉庁日を設定し、教職員が心身のリフレッシュをする期間の確保を行います。
- (カ) 令和3年度より、7時30分から17時30分以外の時間帯は留守番電話対応とし、緊急連絡は学校専用携帯電話で副校長が一括して受け付けます。
- (キ) 各自最低週1回の「ノー残業デー」を設定し、計画的に業務を進めます。

4 目 標

- (1) 教職員一人あたりの勤務時間外在校時間数 ⇒ 月平均40時間以内
- (2) 年次休暇を取得しやすいと感じている教職員 ⇒ 80%
- (3) 部活動の休養日を徹底する部 ⇒ 100%
- (4) 生き生きと仕事ができていると感じる教職員 ⇒ 80%
- (5) 職場に「思いやりと助け合い」の精神があると感じる教職員 ⇒ 80%